

第11回

元東弁事務局職員である弁護士に聞く

新進会員活動委員会委員 岩田 修一 (57期)

今回は、弁護士になる前に東京弁護士会の事務局職員として勤務されていたご経験をお持ちの、宮崎大輔会員(61期)に、お話を伺いました。

会務活動は、事務局の活躍なしには成り立たない中で、事務局と弁護士の両方を経験された宮崎会員が、事務局時代からどのように感じておられたか、興味深いことだと思います。

経歴

—経歴についてお聞きますが、何年くらい事務局にいたのですか？

宮崎：約5年4ヶ月です。24歳から29歳までいました。

—弁護士になろうと思ったのはいつですか？

宮崎：高3のころから弁護士になろうと思い、大学に入って司法試験の勉強をしていました。事務局に入った後も実は司法試験を受けたのですが、その後、退職して、ロースクールに行き、新司法試験に合格しました。

—当時、事務局には、宮崎会員の他に司法試験受験生はいましたか？

宮崎：いや、余りいなかったと思います。前に受験していて辞めた人はいました。

—事務局にはどのようにして入局したのですか？

宮崎：私が東弁に入った時には、新聞に募集が出ていて、それに290人くらい応募したそうで、私を含め3人が採用されました。

—そもそも、事務局に就職したのはなぜですか？

宮崎：正義感をもってやれる仕事、人権擁護のような仕事がしたいと思ったからです。

事務局時代のこと

—事務局時代の主な業務は何でしたか？

宮崎：最初は経理課→総務課(当時は業務課)にいて、最後は、司法調査課にいました。前の2つは短かったのですが、司法調査課には3年くらいいました。司法調査課では、憲法問題協議会(現在の憲法問題対策センター)と法曹養成センター、拘禁二法案対策本部(現在の刑事拘禁制度改革実現本部)の3つを担当していました。大学時代に代用監獄につ

いて卒論を書き、事務局では拘禁二法案対策本部の担当をしようと思っていたので、担当になって運がよかったです。今は、代用監獄問題について関心がある人が少なくなってきましたけどね。

また、労働組合関係の仕事もしていて、春闘の時や就業規則変更の時に職場集会を開いたり、団体交渉をしたりしていました。毎月1回は労使協議がありました。私、他の方よりも法律に詳しいということがあって、法律面についての話をすることが多かったんです。

—結構忙しい仕事をしていましたね。

宮崎：そうですね。特に組合の仕事は、昼休みや午後5時以降からしていました。

—忙しい事務局時代の生活サイクルはどうなっていたのですか？

宮崎：勤務時間は、午前9時から午後5時までという感じでした。もっとも、東京三会関係の協議会とかは午後5時以降の開始が多かったの、残業はありました。勉強をしていた時は、仕事が終わってから始めていました。

—東弁事務局内の人全員顔と名前が一致しているものですか？事務局内での交流はあるのですか？

宮崎：東弁事務局には当時5、60名しかいなかったの、全員知っていました。交流としては、年齢が近い同僚と月1回くらいは飲みに行っていました。全体でも、新年会、忘年会、仕事納め、暑気払いなどの飲み会もあって行っていましたよ。でも、芸をやるとかカラオケ大会とかはありませんでしたが…(笑)。

—弁護士は、いろいろとやっていますが、事務局内はおとなしいんですね。一弁、二弁、日弁連の事務局の人との交流はあるのですか？

宮崎：他会の事務局とも、労働組合関係や三会委員会などで一緒にすることがあったので、知り合いは多かったんです。

—事務局時代に困った弁護士はどんな人でしたか？

宮崎：詳しい説明もなく作業の指示を受けたり、事務局では解決できないことを頼まれたりといろいろ困ったことはありました。

—私も、委員会の直前にコピーをお願いしたりしたときは申し訳ないなあと思っていますが…(汗)。

宮崎：当時は仕方ないなあと思いながら受けていましたけどね。弁護士になってしまうと、その弁護士の気持ちもよくわ



左から、岩田会員、宮崎会員

宮崎 大輔 会員 (61期)

2008年弁護士登録。現所属事務所に入所。

かるのですが、できるだけ、委員会直前や委員会中のコピー要請は避けていただけるとありがたいですね(笑)。

— 逆に、よい・すごい・こうなりたい、と思った弁護士は？

宮崎：非常にお忙しいのに、意見書作成のような他の弁護士が嫌がる会務活動を積極的に行ったり、事務局にも非常に気を配ったりする弁護士ですね。

— 事務局時代に、弁護士会館のこんなところが便利だ、不便だと思ったことはないですか？ それは、弁護士になってからもそうですか？

宮崎：エレベーターの来るのが遅いことについては、昔からそうでした。今もそれほど変わっていないように思います。それに、コンビニが裁判所や検察庁にはあるのに弁護士会館にないのは不便ですね。

便利だと思うところとしては、4階の会員室は人も余りいなくていいですね。図書館も広くていいですね。

— 事務局のことでこんなことを知っている弁護士として便利だというような裏情報は？

宮崎：裏情報かどうかはわかりませんが、ノートパソコンを持っている弁護士にとっては、会館内で無線LANが使えるのは便利ではないでしょうか。

## 弁護士になってからのこと

— 現在の主な業務は何ですか？

宮崎：現在は、一般民事、刑事が中心です。会務活動も、事務局時代に担当していた関係で、東弁の刑事拘禁制度改革実現本部、三合同拘禁施設調査委員会、日弁連の刑事拘禁制度改革実現本部などに入っています。

— 入所された事務所は、事務局時代の業務と関係があるんですか？

宮崎：当時担当していた拘禁二法案対策本部に所属していた弁護士に声をかけてもらい、その弁護士の事務所に入りました。その他にも、会務関係や事件にも知り合いの弁護士から声をかけていただくこともあります。

— 事務局にいたことで人脈が広がったということでしょうか。また、事務局時代のことが今役立っていることはありますか？

宮崎：今はまだ弁護士になって1年も経っていないので、まだまだ会務活動を十分にしているとはいえませんが、事務局職員の気持ちが分かりながら物事を頼めるので、その点はい

いかかもしれません。また、これは私が事務局出身だからではないのですが、事務局職員に何か聞くと親切に教えてもらえるのはいいと思います。

— 弁護士になってから、事務局時代と比べて何か変わって見えることはありませんか？

宮崎：事務局職員の人数が増えて、知らない人が多くなりました。

— 昔同僚だった事務局職員は残っていますか？ その方の対応は変わりましたか？

宮崎：昔の同僚の方はかなり残っていますよ。対応は、あまり変わっていないですね。弁護士扱いされてないのかもしれませんが(笑)。

— (笑) まあ、仲がよいということでは。

## 事務局出身弁護士として一言

— 今になって、事務局出身で良かったということはありませんか？

宮崎：いろいろ経験して弁護士になっているので、弁護士の気持ちも分かりますし、弁護士と一緒に仕事をしていたことから、事務局職員だけでなく事務所の事務員の気持ちも分かってよかったと思います。また、事務局の経理課時代に団体保険の担当をしていたので、保険に関しても詳しくなれたと思います。

— 弁護士が会務活動をするにあたって、どのように心がけると事務局としてやりやすいですか？

宮崎：事務局では、その弁護士の所属する委員会以外にも、複数の委員会の担当をしています。それなのに、ともすると担当事務局職員はその委員会しか担当していないと思われてしまうことが多いので、そうではないことを知っていただければと思います。

— 事務局と弁護士が密に協力して会務活動をするには、弁護士として何を心がければよいと思いますか？

宮崎：弁護士と事務局職員はお互いの役割があるので、その点を理解し合って協力してもらえればよいと思います。

(後記) このほかにも、様々なお話を伺いましたが、ここには書ききれませんでした。お話を伺って、事務局の方に迷惑をかけないようにしなければと思った次第です。